

公立大学法人岐阜県立看護大学 平成23年度の業務の実績に関する評価結果の概要

1 公立大学法人の評価制度

県は、公立大学法人岐阜県立看護大学（以下「法人」という。）が6年間で達成すべき目標（以下「中期目標」という。）を定め、これに対し法人は、中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）を作成し、中期計画に従って6年間の業務運営を自主的・自律的に行う一方で、法人の業務の実績を第三者機関である評価委員会が事後に評価する制度が設けられました。

評価委員会は、法人が6年間で中期目標を達成できたか評価することになりますが、各事業年度においても、中期計画の実施状況を評価し、中期目標の達成に向けて順調に進んでいるかをチェックすることになっています。

2 評価結果の概要

全体評価 A（中期目標の達成に向けて順調に進んでいる）

S	中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）
A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
B	中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる
C	中期目標の達成のためにはやや遅れている
D	中期目標の達成のためには重大な遅れがある

大項目	評価の内容（特筆すべき点・課題）	
大学の教育研究等の質の向上	特筆すべき点	○各種国家資格合格率は、全国合格率を上回る高いレベルを維持し、県内への就職の促進、外部資金獲得に向けた支援に取り組むなど、県内の看護サービスの質の向上へ大きく貢献していると認められる。
	課題	○県内看護職の需要を把握するとともに関係機関との協議を的確に行い、ニーズに応じた専門看護師コースの開設に取り組みたい。 ○在宅に力を注ぐために、訪問看護師のレベルアップを図る専門コースの開講も必要である。
業務運営の改善及び効率化	特筆すべき点	○事務職員評価制度の構築や、科学研究費補助金の内部監査を実施するなど、内部牽制の向上を図っている。
	課題	○不測の事態にも対応できるよう確実な実施が可能となるような研修計画を立てる必要がある。
財務内容の改善	特筆すべき点	○施設貸出の有料化に伴う収入の確保、委託経費等管理経費の節減や電気、再生紙の使用量の大幅な削減を実施している。
	課題	○想定外経費がかさみ、実質9%の管理費増となっている。
その他業務運営	特筆すべき点	○キャンパスハラスメント防止研修を学生、教職員に対してそれぞれ実施するなど、ハラスメントの啓発、防止対策に努めている。
	課題	○ハラスメントを潜在化させない工夫や、ハラスメントが発生した場合に迅速に対応できる体制を整えておくことが望ましい。
その他	特筆すべき点	○災害用備蓄品を購入したり、災害時の支援協力について、岐阜県、羽島警察署と協定を締結するなど、災害対策を強化している。 ○中期計画の見直し、達成目標を数値化するなど、昨年度の指摘事項を速やかに改善している。